

地歴公民 (日本史) 早稲田大学 文化構想学部 1/1

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式30問 (語句選択13問 正誤判定16問 年代整序1問) 記述式14問 計44問

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易 (**易化**・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は4題で変化はなかったが、小問数は2問減少して44問となった。語句選択問題は9問から13問に増加したが、正誤判定問題は22問から16問に減少した。記述式と年代整序は問題数に変化はなかった。

出題の特徴や昨年との変更点

例年どおり、大問4題がすべて複数の時代にまたがるテーマ通史であり、各分野からの網羅的な総合問題が続いている。テーマ通史なので必ず大問ごとに近代史が出題されるが、その比率は年度によって異なる。本年度は近現代史からの出題が17問から14問に減少したものの、戦後史は4問から6問へ増加した。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 正誤判定 記述	古代～現代の鉱山と採鉱 技術の進展	問5は難。問6は迷ったかもしれないが、早稲田大学志望者ならば正解したい。問7は消去法でウとエまで絞り込みたい。問9は選択肢に詳細な用語があり、さらにウの箱根用水とオの見沼代用水の完成時期を知らなければ解けないため、難。問11の花岡(事件)は詳細な用語ではあるが、過去に教育学部(14年)でも記述で出題されており、早稲田大学志望者ならば正解できたかもしれない。	難
II	語句選択 正誤判定 記述	古代～戦後の「改革」	正誤判定問題に正文の2つ組み合わせ、XYZの3つの組み合わせが出題されたが、それ以外のものを含めても、内容は基本的なものばかりだったので、1つも取りこぼすことなく正解したい。	易
III	語句選択 正誤判定 年代整序 記述	原始～現代の食の歴史	問7は設問文の「打ちこわし」の文言にとまどった受験生がいたかもしれない。問10の年代整序は、い・ろ・この時期(または時の内閣)が判断できれば、選択肢は2つにまで絞り込めただろう。	やや易
IV	語句選択 正誤判定 記述	古代～戦後の風刺と戯画	問3はやや難。問7は、教科書や写真資料集には必ずと言っていいほど、ビゴーの風刺画は掲載されているので正解したいが、やや難。問12はやや難。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

昨年度はかなり難化したがそれは例外的で、本年度も含め従来は標準的な問題が多く、高得点の争いが必至である。難度を高めているのは、全体の半数近くを占める正誤判定問題である。3つの短文の正誤の組み合わせ問題も増加しているため、曖昧な知識では正解できない。歴史用語を単純暗記するような学習ではなく、教科書の熟読や過去問を通じた確かな学力を身につけなければならない。また、政治史・外交史を主体とする学習に加え、早い段階から文化史・社会経済史など総合的な学習を進めよう。基本・標準的な問題が多数出題されるので、そうした問題を取りこぼすことなく正解していくことが何よりも大切であることを意識してほしい。